

山に親しみ山に想う(17)

－ 韓国の最高峰・漢拏山に登る(最終回) －

< 文・写真 > 岡本

(4) 霊室コース(2004年5月24日、晴れ)

[霊室コースは、漢拏山の南西麓より登り、ウイツセ オルム待避所に至る 3.7km である。4 コース中最短距離 であり、登り所要時間も 1 時間 30 分と最も短い。漢拏山 国立公園管理事務所 霊室支所で入山切符を買い、2.4km の舗装道路を登った先にある 霊室休憩所から実質的登山路に入る。]

「今日は漢拏山の霊室コースを歩いた。コースは片道 3.7km、往復 7.4km であるが、頂上の白鹿潭まで行けず、標高 1700m のウイツセオルム待避所までである。待避所以遠の頂上までのルートは、自然休年制で封鎖されている。登山途中の景観は良く、本土の小白山の頂上 1400m 辺りと感じが似ているが、それより雄大なので、今まで歩いたコースでは霊室コースが最も美しい。

霊室休憩所の売店でキムパップ(韓国太巻き)とポカリスエットなどを買って、9時15分に入山。登山口に(霊室海拔 1280m)の碑がある。入山直後は、登山路左に溪流を見て、赤松の樹林を進む。心が和む。標高 1400m 地点手前までは、緩慢な道。しかし、足は昨日のテニスの疲れがあって本調子ではない。コース全体は、枕木や石の階段となっており、全く危ないところがない。小学生や幼稚園児ぐらいの子供も登っている。登山姿に身を固めた大人は、ある意味で馬鹿げて



いるみたい。9時40分頃、道幅は狭くなり若干急坂になる。9時55分頃、樹林が切れて視界が開ける。振り返ると、山房山オルムが南方向に見えた。西帰浦方面の海岸に国際会議場や新羅ホテルが望見できる。霊室溪谷を右回する際、目睫の間に霊室奇岩の五百羅漢が迫ってくる。壮観の一言である。

— 霊室に霊が住むという漢拏山人の多きに霊はいずこに—

[快晴。騒々しい登山者が数珠つなぎになって登って行く。山霊も騒々しさに逃げださないだろうか。韓国人登山者は一般的にやかましい。]

「10時に標高 1500m 地点到着。辺りはツツジなどの低木になり、オルムの群れが望見できる。10時30分頃、屏風岩を通過。やがて、低樹林帯に入り、また視界が利かなくなる。10時50分に低樹林帯を抜けると、頂上白鹿潭の外周壁が視界に入る。標高 1600m 辺りの平地に出る。地衣類をまとった岩田が広がる。ソジャックチワツ(方言で石が立っているの意)という地帯だ。地衣類保護のため木道。11時にノ口鹿泉(飲める)に到着。11時10分にウイツセオルム待避所、標高 1700m に到着。1時間55分所要。売店ではカップラーメン、缶コーヒーの他に、アイゼン、手袋、ポカリスエット、フィルム、乾電池などを売っている。登山者はキムパップ(韓国太巻き)がカップラーメンを食べている。自分もキムパップだ。待避所の電気は、太陽光発電と風車発電を利用。12時に御里牧コースより下山へ。13時30分に登山口の漢拏山国立公園管理事務所に到着。夏に来たら連れて行く、美しいぞ。」



[霊室コースは霊室奇岩の景観が白眉であり、それに色を添えるのは、春にツツジ戸、夏に深い樹林、秋に紅葉、冬に雪景である。霊室コースは、登る登山コースというよりも、漢拏山の四季を観て感じるコースである。]

霊室コースのコースタイム(距離:3.7km、登り所要時間:1時間30分) 霊室休憩所登山口(標高1280m)→2.1km・1時間→屏風岩(標高1580m)→1.2km・25分→ノ口鹿泉(標高1680m)→0.4km・5分→ウッセオルム待避所(標高1700m)

参考資料

- ・ 「ハルラサン(漢拏山) 寄生火山の王国・生態系の報告」カン・ジョンヒョ著 トルペゲ出版社 2003年4月刊
- ・ 「漢拏山国立公園(登山、観光案内パンフレット)」漢拏山国立公園管理事務所 2002年3月刊
- ・ ウィキペディア「漢拏山」

(了)